

Osaka Metro Groupが目指す大阪都市型MaaSについて

2019年10月31日
Osaka Metro Group

本日の内容

1. **Osaka Metro Groupが考える
大阪のモビリティ課題と実現したい"大阪の未来"**
2. **Osaka Metro Groupが
"大阪都市型MaaS"で実現したい姿**
3. **"大阪都市型MaaS"で
将来に実現したい姿と2025年までに実現すること**
4. **Osaka Metro Groupとしての今後の取り組みロードマップ**
5. **Osaka Metro Groupの考えるスマートシティモデル**
6. **府・市へのお願い事項**

1.Osaka Metro Groupが考える大阪のモビリティをとりまく課題

現在、大阪のモビリティには種々の課題・改善余地が存在。また、長期的な移動・交通の在り方の変化、万博・IR対応、SDGs達成への貢献が求められる

現在の大阪におけるモビリティの課題・改善余地

ラストワンマイルの負担

駅・バス停には徒歩で行く必要があり、ファースト/ラストワンマイルの移動が負担

- 交通弱者¹は2030年に人口の3割を占める280万人まで増加

移動時のストレス

移動中の不便・不安が存在

- ラッシュ時の混雑/改札でのカードタッチ/子どもの見守り等

乗り継ぎ・支払いが複雑/面倒

路線間/別交通モードへの乗り継ぎが複雑、都度支払いが必要で面倒

想定以上の災害/なくなる交通事故

想定以上の大規模災害への対策不足

- 南海トラフは今後30年以内に70～80%の確率で発生
人為ミスによる交通事故の発生

長期的な環境変化/SDGs

移動の必要性減少

生活環境変化・技術進化に伴い、移動そのものの必要性が減少し、街の賑わいが衰退

- 総人口の減少
- リモートワーク化
- テクノロジー進化

インバウンドの急増

外国人観光客の長期的な増加トレンドに対応した観光都市化

- 2025年の万博/IR開業

SDGs達成への貢献

脱炭素革命-気候変動
対応への貢献も求められる



1. 交通弱者の対象範囲は移動に困難・不便を抱える身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者手帳交付者、及び交通事故に遭うリスクの高い3歳以下幼児、75歳以上高齢者、要支援・要介護認定者と定義(一部重複有)
Source: 総務省「国勢調査」; 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」; 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」; 政府 地震調査研究推進本部「南海トラフで発生する地震」; 大阪府「大阪府域の人的被害・建物被害想定」, 「大阪IR基本構想(案)」 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会事務局 HP

大規模な都市型MaaSを世界に先駆けて大阪で実現し次世代型の社会システムを構築
～誰もが体験・発見を求めて出かけたいまちへ～

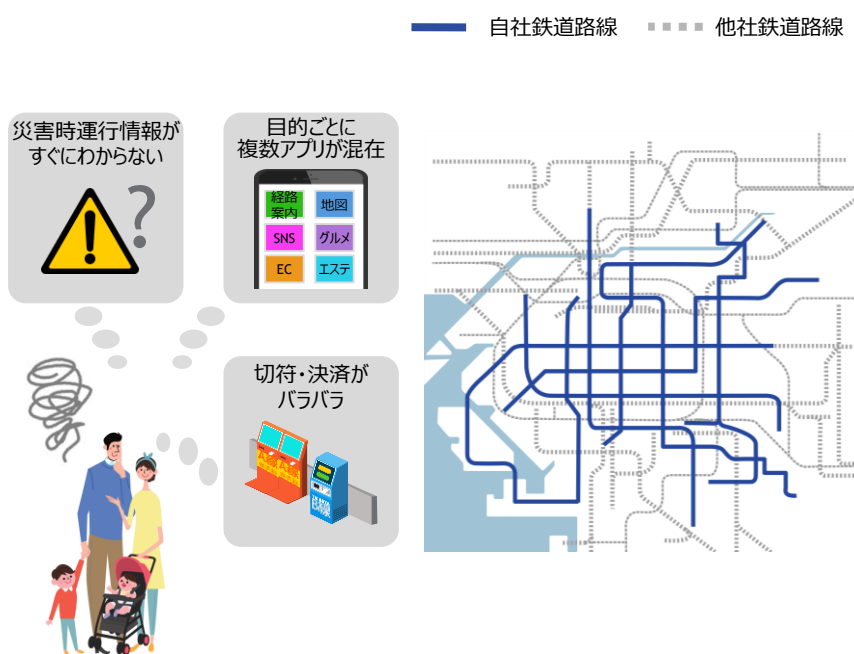
④ 技術基盤でささえる



1. Osaka Metro Groupとして実現したい“大阪の未来”の具体像

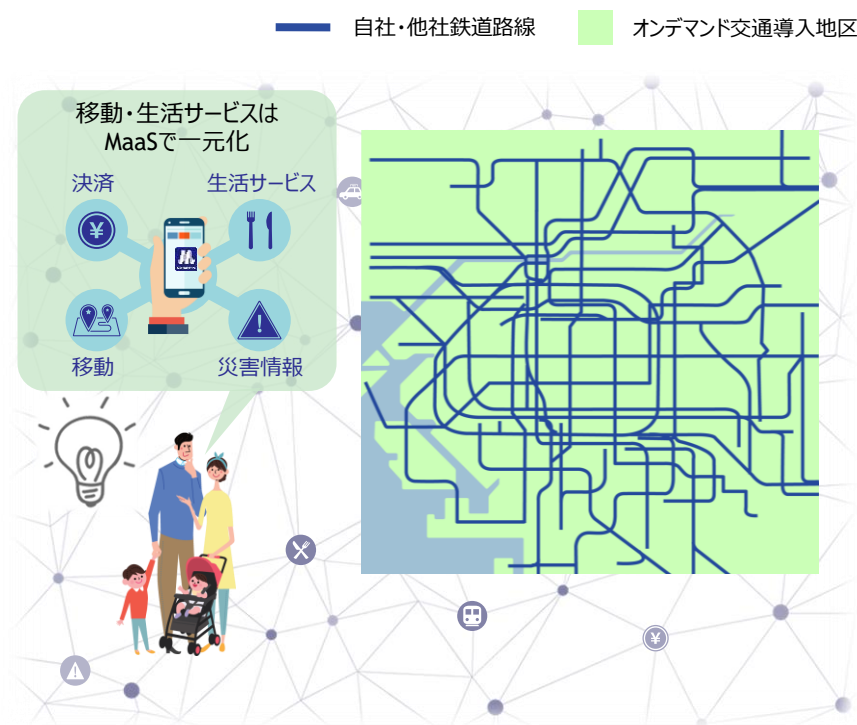
交通/安全・安心/情報が繋がることで、大阪府下830万人の暮らしが
より安全・安心、快適・便利に進化

現在



大阪の移動・生活には不便さが存在

将来



大阪府下約830万人¹と府外から来る/行く約64万人²
の移動と生活が一元化され快適・便利に

2.Osaka Metro Groupが実現したい“大阪都市型MaaS(観光・郊外型MaaS含む)”

1

交通がつながる

自分専用の移動手段の
ように使える

移動のパーソナル化・毛細化

統合された顧客接点

移動のストレスフリー化

オンデマンドバス、相乗りタクシー
シェアサイクル、小型低速モビリティ

MaaSアプリ、乗継スポット¹

顔パス、バリアフリー
混雑情報、見守り 等

+

2

安全・安心がつながる

世界一安全・安心・快適な
移動手段

交通の自動化/事故防止

大規模災害対策/セキュリティ強化

鉄道・バス・タクシーの
自動運転、遠隔操作

設備の堅牢化・浸水対策
テロ/犯罪対策

+

3

情報がつながる

つながる程、便利に楽しくなる

駅・地下街を街/居場所にする

日常・非常時の生活サービス連携

移動の提案化/サービス化

駅、地下街

行政、医療、物流
災害時情報連携 等

リコmend(観光等)
移動とサービスの一体化

4

技術基盤でささえる

データ連携・自動化などの
技術基盤確立

交通に関する最新技術の導入

データを一元管理する基盤構築

最先端交通技術
遠隔操作技術 等

AI、IoT、5G 等

1.異なるモビリティ間の乗り継ぎのための場所

※ 検討中のものも含む

3. “大阪都市型MaaS”で実現したい姿と2025年までに実現すること(1/2)

		現状	将来の目指す姿	2025年までに実現したいこと
1 交通が つながる	移動の パーソナ ル化・毛細化	駅・バス停まで徒歩で遠いエリアや、 路線バスの頻度が低いエリアが 存在	府下全域でファースト・ラストワン マイルが無人オンデマンド交通で 繋がる 短距離低速の手段も拡充	一部地域で有人オンデマンド バス、都心部で有人相乗り タクシー 地下鉄全駅にシェアサイクル 設置
	統合された 顧客接点	移動に必要な一連の行動で、 複数の“接点”を持つ必要	全交通手段の目的地検索～ 決済まで顧客接点をシーム レス化 異なる交通手段間の乗り継 ぎが簡単に	主要交通手段が連携したMaaS アプリの機能の提供 乗継スポット¹の整備
	移動の ストレス フリー化	移動にストレスを感じる - ICカードで都度払い - 車両混雑で何もできない - 子どもがちゃんと電車に乗れ ているか常に心配	移動のストレスを完全に排除 - 駅の改札機をなくし ゲートレス化 - 混雑そのものの解消 - 街全体で安心な見守り	移動のストレスを軽減 - 全駅に顔認証改札機設置 - 混雑情報提供 - 駅での見守りサービス
2 安全・ 安心が つながる	交通の 自動化/ 事故防止	人為ミスにより交通事故が生じて いる	完全自動運転/遠隔操作技術 /IoT技術により交通事故、交通 トラブルがゼロに	一部地域での有人補助の自動 運転と遠隔操作を実装・実証 - 鉄道：自動運転の実証 - バス：自動運転の実用化 (一部地域) - タクシー：自動運転の実証
	大規模災害 対策/セキュ リティ強化	災害が想定以上に大型化/ テロ等の犯罪リスク - 南海トラフ - 大型化するスーパー台風 - テロの発生リスク	大型化する災害を想定した備えで 交通機能を維持/最新技術を活用 したセキュリティで安心 - 大型地震への備え - スーパー台風による浸水防止 - AI×セキュリティによるテロ防止	現在想定されている災害・台風等 への対策を徹底 - 駅の防災備蓄・帰宅困難者 対応、インフラの耐震化 - 浸水防止/浸水時対応強化 - テロ・痴漢等の対策強化

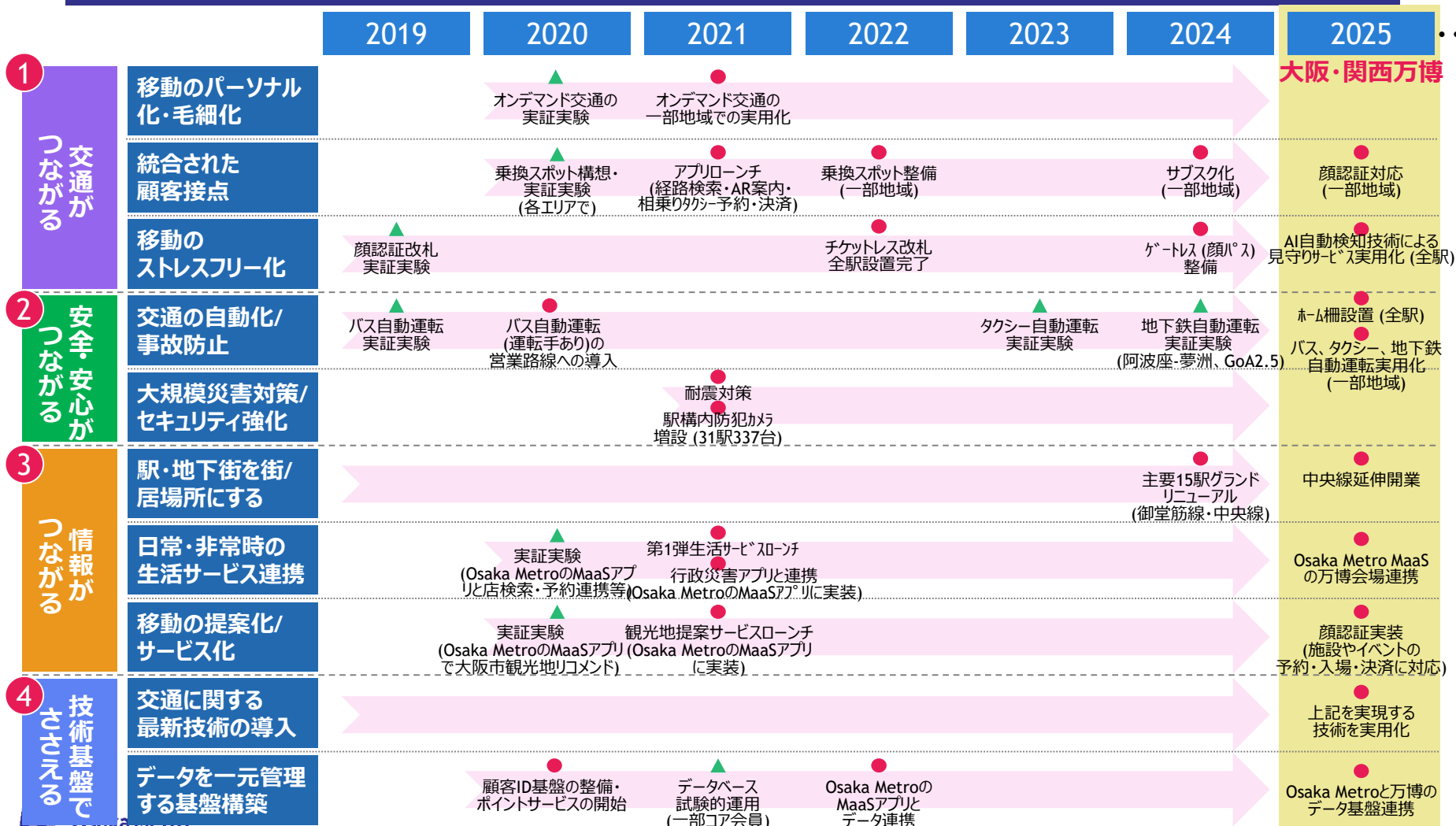
¹. 異なるモビリティ間の乗り継ぎのための場所
※ 検討中のものも含む

3. “大阪都市型MaaS”で実現したい姿と2025年までに実現すること(2/2)

3		現状	将来の目指す姿	2025年までに実現したいこと
情報がつながる	駅・地下街を街/居場所にする	地下鉄に乗る必要性のみから駅を利用	人が集まりやすい駅・地下街が楽しく、便利になる - 心地よい・楽しい駅へのリニューアル - 地下街の目的地化	主要駅を街・居場所化（駅と地下街の一体化） - 御堂筋線、中央線15駅のリニューアル完了 - 中央線延伸
	日常・非常時の生活サービス連携	生活サービスと交通サービスがそれぞれ独立して不便 飲食店を予約した後、別途経路検索・配車 等	あらゆる交通/生活サービスが連携していて便利 目的地での行動を決めると、一連の移動やサービスが自動で最適化される	観光・一部生活サービス・非常時の交通との連携から実現 - 観光客向けサービス連携（観光型MaaS） - 生活サービス連携 - 飲食店予約との事前注文・移動連携 等 - 非常時の情報発信
	移動の提案化/サービス化	自ら目的地の情報収集し、個別にお金を支払って移動 自力では面白い観光資源・目的地にたどり着けない	個々人に応じて本人が思いつかないようなサービス・体験を前もって提案してくれる 移動が生活サービスに組み込まれ、一体化(B2B2C化¹)	万博内・大阪観光の体験提案 万博内施設案内、周辺観光地提案を提供
4		現状	将来の目指す姿	2025年までに実現したいこと
技術基盤でつなげる	交通に関する最新技術の導入	交通に関する先進技術の実用化が急速に進んでいる	交通の最先端技術を常にとりこむ	5Gを活かした自動運転技術、遠隔操作技術による運行オペレーション向上
	データを一元管理する基盤構築	移動・生活データは有効に連携されていない	AIやIoTを活用し、日々データ収集、学習することで進化し続ける	移動・生活データを一元化する共通基盤の構築

4.Osaka Metro Groupとしての今後の取り組みロードマップ

2025年までに実現したいことを見据え、大阪都市型MaaS各要素の実証実験、実用化を府・市、他社と連携の上、順次進めていく（万博・IRと連携し、夢洲での自動運転やオンデマンド運行も目指す）



大阪都市型MaaS(観光型MaaS含む)で万博来場者をおもてなし

5. Osaka Metro Groupの考えるスマートシティモデル

特定エリアで大阪都市型MaaSの各要素を実装し、エリア全体で環境に優しい自律型のエコシステムをつくりあげる

1 全移動が公共交通で完結

2 犯罪・事故ゼロ

3 社会生活に必要な
情報がつながる

4 環境に優しい都市機能
でささえる



6. 府・市へのお願い事項

法制度・条例整備や行政サービスとの連携について、府・市のご協力をお願いしたい

□ 法制度・条例の整備

- オンデマンドバスの実証実験へのご協力
- 自動運転の道路インフラ整備へのご協力
- スマートシティモデル地区の特区化などへのご協力

□ 行政サービスとの連携

- 大阪都市型MaaSサービスと行政サービスとの連携
(災害情報アプリとの連携 等)
- 大阪万博での交通・会場内での顔パス連携、観光型MaaS
へのご協力



**Osaka Metro
Group**

本資料に掲載されている情報は現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいており、検討中の項目を含んだものです。従って、実際には様々な要因により、異なる結果となる場合がありますことをご了承ください。